

だいせつぎんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

冬シーズンの入り口で

昨年この時期、100年に一度「1」がずらりと並ぶ日に休日だった私は、「『1』並びにふさわしい場所に行こう」と思い立ち、大雪山国立公園の中で剣山(華道で使う道具)に一番似ている上ホロカメットク山のふもとに立ちました。2011年11月11日11時11分という時刻と、好天の絶景に、ひとりご満悦でした。

ここは11月半ば過ぎにもなると多くの登山者が集まり、急な雪面や岩場で冬山訓練を行います。昨年は雪が少なく、岩はまだ岩肌を黒々と見せてそびえ立ち、ただ眺めに來ただけなのに「これをどう登るのだろう(機会あれば登りたい)」と思って気持ちが高ぶっていました。

急峻なだけに、この山域では雪崩事故がたびたび起きています。5年前の11月23日、右手前の、ちょっと頭巾のように見える「化物岩」の直下がなだれ、5人が死傷者したのは記憶に新しいところです。

▶上ホロカメットク山の「化物岩」(写真右周辺)



◀北大山スキー部慰霊碑(写真左下)

「早く積もれ」と積雪をあせりにも似た気持ちで待つ11月ですが、この時期、実は旭岳でも大きな雪崩事故が起きています。1972(昭和47)年11月21日夜、豪雪のさなか5人の山スキー部の大学生が盤の沢で雪崩にのみ込まれたのです。

当時の部員が毎年行う慰霊祭は、例年仲間だけのひっそりしたのですが、40周年の今年は現場で約50人が山の歌を合唱し、故人をしのんだそうです。

11月、旭岳温泉は全国からスキーのクロスカン トリー選手が合宿に集まります。1年で一番若さと力が溢れ、遠い過去はまるで嘘だったように記憶が薄れていきますが、雪山を楽しむ人々が世界中、日本中から訪れ続ける限り、悲劇を繰り返さないように知恵と経験を積み上げることが大切ではないでしょうか。

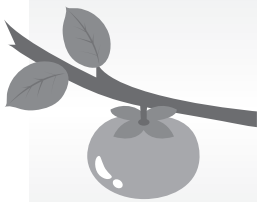
旭岳ビジターセンターホームページ

<http://www.welcome-higashikawa.jp/info/?c=16>

旭岳ビジターセンター 菊地基

俳句

年寄り は頑固がよろし柿に洪
 忠別の 瀬音清けし秋ひと日
 清流の 底まで紅葉彩りて
 歌いたく なるよな夕日の赤トンボ
 弛み無き 稜線映ゆる空高し
 白壁につ た這う影の秋のくれ
 柿食へば 齢の音となりけり
 なで肩は 母親ゆずり木守柿
 左見右見 晩秋の山河を撮しるる
 豊作や 村をまとめて明るうす
 山々に 神は錦の刻印す
 ごぶさたの 手紙をそへて富有柿
 稜線の 日々変りてや秋深む
 富有柿 故郷の香りと共に來る
 父取りて 母洪抜きし柿届く
 純情が 少し残りし赤とんぼ
 虫喰いの 柿の葉はさむ賢治の詩



石澤清宏
 澤田久美子
 松山蓉子
 三島智
 若田郁
 秋山深雪
 長谷川きみゑ
 小林ろば
 高橋公花
 杉山ひろのり
 保科なほ
 徳光吐苦
 杉山りつ
 山口佐知子
 横田則子
 若田久
 高瀬潤